

児童福祉事業7件

児童虐待や養育放棄など、子どもたちを取り巻く環境は相変わらず厳しい。あすの社会を担う大事な子どもたちを守り、はぐくむため、今期も例年並みの7事業を助成・援助した。

**第51回山口県アイリンピック大会** 山口県内の児童施設や障害者施設などの入所者が一堂に集うスポーツとレクリエーションゲームの一大イベント。県児童福祉連絡会議など7団体が主催、当事業団など8団体が後援・助成し、5月19日、山口市の維新百年記念公園・陸上競技場などで開催。施設の利用者や職員ら2700人が参加した。

**第11回きらびかキャンプ** 2007年度までの32年間、本事業団がYMCAに助成して心身障害児を対象に実施してきた「のびのびキャンプ」を衣替えし、20年度から発達障害児対象の新キャンプとしてスタート。今期はプログラムを一部変更して夏、冬の宿泊キャンプに集約、実施した。YMCAが実施するキャンプは会員を対象にしているが、会員以外でも参加できるようにすることを条件に引き続き助成した。

**平成30年度福岡・筑豊地区合同自立体験セミナー** 筑豊京築地区児童福祉施設長会が、管内の児童養護施設に在籍する中、高生を対象に、職場体験などを通じて卒業後の社会人としての自覚を促すた

めに実施。7月15日に第1回研修会を行い、11月25日に第2回研修会を開き、ビジネスマナーなどを学んだ。前期は降雪で一部研修が中止になり、助成金は繰り越し。今期の支出はなかった。

**田川児童相談所管内児童福祉施設ボウリング大会** 福岡県田川児童相談所と筑豊京築地区児童福祉施設長会が8月5日、福岡県飯塚市の麻生塾ボウリングで開いた。児童福祉施設から8月の中学・高小生の部には61人、10月の小学生の部には25人が参加した。

**田川児童相談所管内児童福祉施設フレイム愛！レクリエーション大会** 福岡県田川児童相談所と筑豊京築地区児童福祉施設長会が9月15日、田川市の県立大学体育館で開催約100人が参加、玉入れやスプーンリレーなどを楽しんだ。前期は、台風接近で開催を見送り、助成金は繰り越したため、今期の支出はなかった。

**青少年の自立を支える福岡の会「自立援助ホーム」年間運営費助成** 児童養護施設退所後の15、20歳の青少年の自立を支

援するNPO団体。2008年7月に「かんらん舎」をオープンし、15年度には2か所目の「結ホーム」を開設した。福岡市からの補助金や会員の会費、寄付金で運営しているが、資金不足のため厳しい状態が続いており、今期も「母の日・父の日募金」を財源に助成。結ホームの営繕工事に充てた。

**学・卒業記念祝い品プレゼント** 恒例の本団主催事業。歳末助け合い募金「愛の義援金」を財源に、児童養護施設や障害児、肢体不自由児、盲ろう児などの児童福祉施設の小学校入学と中・高校卒業予定者にお祝いの記念品を贈っている。今年度も福岡・山口両県内の施設児童ら計67施設を対象に該当者の有無を調査。64施設に対象者452人がおり、新1年生にはラ

**◆福祉団体助成事業◆** 今期は、前年度と同じ12団体に助成金を贈った。いずれも継続事業。

あしなが育英会へ助成▽福岡、北九州、佐賀、大分の「いのちの電話」へ助成金▽「福岡盲ろう者友の会」活動費助成▽ホームレス支援のNPO法人抱樸に助成金▽山口県共同募金会▽福岡県交通遺児を支える会▽九州盲導犬協会▽北九州あゆみの会▽北九州市障害福祉ボランティア協会

☆北九州市障害者スポーツ大会☆  
400人が16種目競う



第57回北九州市障害者スポーツ大会（市、市障害者スポーツ協会など主催、毎日新聞西部社会事業団など後援）が5月26日、北九州市八幡西区の市立本城陸上競技場などであった。競技を通じてスポーツの楽しさを知ってもらう、市民の障害への理解を深めるのが狙い。

**◆障害者福祉事業◆** 今期は新規1件、他はすべてが継続事業で、計19件。うち名義後援のみは5件だった。

「声の点字毎日」発行▽第41回毎日サマースクール▽北九州精神障害者福祉会連合会バスハイク▽第39回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ▽第2回盲学校フロアバレー大会▽第43回「わたぼうし音楽祭」▽第53回九州地区豊学校体育・文化連盟鹿児島大会▽第87回全国盲学校弁論大会▽日本ふうせんバレーボール協会運営費助成▽第37回北九州市障害者ボウリング大会▽中間市手をつなぐ育成会年末もちつき大会▽第38回「出発を励ます集い」▽北九州OPEN（国際車いすテニストーナメント2019北九州）

**◇名義後援事業◇** 第16回オンキョー点字作文コンクール▽第55回点字毎日文化賞▽第36回北九州精神障害者家族会連合会総会▽第56回北九州市障害者スポーツ大会▽第37回肢体不自由児者の美術展▽

19年度予算を承認

役員会 事業は例年並みに

毎日新聞西部社会事業団は、2019年3月19日に18年度第2回通常理事会を北九州市小倉北区の毎日新聞西部本社会議室で開催。19年度予算案や事業計画案を審議し、事業予算は18年度をやや上回る5800万円規模、各種事業は例年並みの内容で実施することを決めた。

続いて、新年度（19年度）に入った5月9日に第1回通常理事会▽30日に定時評議員会を開き、18年度の事業報告案や決算案が承認された。会議では、大きな被害が出た西日本豪雨や北海道地震で救援金を呼びかけ、東京、大阪両事業団と合わせ、2000万円▽北海道地震は3800万円を被災地や現地で活動するNGOなどに届けた▽他の募金も関係団体へほぼ前年並みの配分をした▽年末チャリティー即

理事、評議員  
3人が交代

また、評議員会では、理事の高野利昭氏と評議員の石井彰、山本修司両氏の辞任が報告され、後任の理事に片山憲一氏（西日本工業大学長）▽評議員に渡辺勇次氏（RKB毎日放送北九州支社長）と渡辺英寿氏（毎日新聞西部本社代表室長）を選任した。

◇ 18年度各事業の内容は以下の別稿参照。  
北九州市小倉北区であった定時評議員会

◆海外難民救援事業——25団体へ◆

毎日新聞社会事業団が、毎日新聞紙面との連動で1979（昭和54）年から「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」として始めた海外難民救援事業は、2018年で40年目を迎えた。今回は、4月に東京本社の記者とカメラマンが南スーダンとウガンダで取材、6月に「南スーダン難民報告」と題して連載。8月には大阪本社の記者とカメラマンが、イラクで取材、9月に「暴虐の傷跡——イラクIS後」のタイトルで連載した。両連載では、内戦や過激派組織との戦闘で多くの犠牲者が出て、家も失い、今も避難生活を強いられる人々を紹介。そうした過酷な状況の中で、傷つきながらも懸命に生きている子どもたちの姿を知った読者から浄財が寄せられた。西部社会事業団は東京、大阪両事業団とともに、国際機関の日本ユニセフ協会や国連UNHCR協会、「ベシヤワール会」「ロシナンテス」をはじめとするNGOなど25団体に総額1005万円を届けた。キャンペーン当初からの救援金の総額は16億3278万8344円になった。海外救援金の配分先と配分額は以下の通り。

国連UNHCR協会▽国連世界食糧計画WFP協会▽日本ユニセフ協会▽国境なき医師団日本▽日本国際ボランティアセンター（JVTC）▽難民を助ける会（AAR Japan）▽セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン▽シエラ＝国際保健協力市民の会▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽難民支援協会▽AMDA▽ピースウィンズ・ジャパン▽シャンティ国際ボランティア会▽マハムニ母子寮関西連絡所▽緑のサヘル▽JIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク）▽our Bridge（孤児院支援）▽高遠菜穂子（ピースフル・プロジェクト）▽EDAYA▽シエラレオネフレンズ▽ネパール・ヨードを支える会▽ネパール震災リウム実行委員会▽ラリグラス▽ベシヤワール会▽ロシナンテス

計25団体 1005万円

◆小児がん征圧事業——29団体に◆

1996（平成8）年から展開している毎日新聞と毎日新聞社会事業団のキャンペーン「生きる——小児がんの子どもたちとともに」と連動した募金。東京、大阪、西部の3事業団に集まった募金は、小児がんや難病などと闘う子どもたちを支援する組織や医療機関などに贈呈した＝写真。当年度は、東京、大阪と合わせ全国で29団体に1580万円を配分。第23次までの贈呈総額は3億4460万円となった。小児がん征圧募金の配分団体と配分額は以下の通り。



がんの子どもを守る会（含むスマートムンストン）▽難病のこども支援全国ネットワーク▽スマイルオブキッズ▽ファミリーハウス▽公益信託日本白血病研究基金▽メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン▽そらぶちキッズキャンプ▽パンダハウスを育てる会▽小児脳腫瘍の会▽アジア・チャイルドケア・リーグ▽ゴールドリボン・ネットワーク▽あいち骨髄バンクを支援する会▽ぶくぶくばーん▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」▽京都ファミリーハウス▽近畿小児血液・がん研究会▽はたね▽守口ぶどうのいえ▽日本クリニックラウン協会こどものホスピスプロジェクトTSURUMIこどもホスピス▽JapanHair Donation&Charity▽チャイルド・ケモ・ハウス

【西部管内】  
にこスマ九州▽九州大小児科医療センター親の会「スマイル」▽宮崎大医学部小児がんキャンプ実行委員会▽ペンギンハウス（長崎）▽九州がんセンター小児科親の会「大きな木」▽久留米大病院親の会「木曜会」▽レモネードスタンド in ふくおか実行委員会

計29団体 1580万円